

# 令和7年度 伊那市立美篤小学校評価表

学校関係者評価；(A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった) 自己(項目間相対を加味した到達度)評価(a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった)

学校教育目標	重点目標(中長期的目標)
「本気・根気・和気・元気」	自ら考え、うごく子ども～自分から～  感じ→おもしろそう・楽しい・なぜはやる気エネルギー 考え→自分で考えてみる行 動する→自分からやってみる。
	今年度の重点目標
	1 授業の充実 主体的・対話的で深い学びに向けた具体的な取り組み ・課題解決型の授業作りの工夫 ・ICTの有効活用の工夫 ・情報共有による教師の学び合い
	2 あたたかな児童理解と支援 個に応じたあたたかな理解と支援 ・特別支援教育の充実 ・チーム支援・情報共有・いこいや外部との連携、多様性の理解 ・校内支援会議の積み上げ
	3 生活科・総合的な活動の充実 中核活動への取り組み ・体験的な活動の継続 ・好き、楽しい、なぜの追求 ・地域を知り、地域に学ぶ 自己有用感・自己肯定感の向上
	4 家庭・地域との連携・協働 ・特色ある活動の継続 ・信州型コミュニティースクールの推進 ・保護者・各種団体・委員会との連携

総合評価		
<p>・今年度の重点「自ら考え、うごく子ども」が児童、職員共に意識の根底に徐々に位置づいていた。交流活動として今年度は美篤保育園・美篤西部保育園児と、諸行事や総合的な学習で交流の機会を増やし、園小連携の関係が強まった。コロナ禍からの脱却として、運動会・音楽会・開校記念日などの行事を地域の皆様へ開放し、多くの皆様に学校の様子を知っていただけた。今後もクラスの中核的な活動として生活科・総合的な学習の充実を図り、自ら考え、うごく子どもの実現をより図っていききたい。</p> <p>・児童同士や子どもたちとの関わり方について、子どもたち・職員・保護者ともに学習する機会を設けるなどして人権教育に取り組んだ。今後さらに人権感覚を磨き、児童の学校生活の満足感や自己肯定感の向上につなげていく。他者との関係づくりの基本として、あいさつと返事が気持ちよくできる子どもの姿をめざしていく。</p> <p>・毎日の教育活動はもちろんのこと、金管クラブの活動や地域の活動でも児童や職員が地域とともに活動する様子が多く見られた。(学校運営委員)</p>		
成果と課題	評価	改善策・向上策
<p>○「自分の考えを持ち、表現する子どもの育成」をテーマとした授業づくりでは、教材について工夫、研究することで子どもたちの関心、意欲を高められた。話し合い活動・書く活動等、子どもの表現力を高めることで、子ども同士の学び合いがより豊かなものになると考え、次年度の課題と考えている。</p> <p>○iPadの活用等、ICTの活用が定着してきている。AIドリルの活用を推進している。低学年での利用促進や、様々な考えの共有からの学びの深まりが課題。</p>	A b	<p>○自ら学び表現する子どもの育成を目指す。そのために、話す・書く活動において、感じたことや考えたことを「伝えたい」と子ども自身が感じることを大切にしたい。そのような気持ちを抱かせるような手立てを考えながら授業づくりを進める。</p> <p>○日々の「授業の充実」をめざす。今年度の研究からみえてきた、日常の事案から、「知りたい」「やりたい」と思える対象との出会いを大切にしたい。</p> <p>○ICTの活用を継続して工夫し、AIドリルの活用を学校全体(低学年含む)で進める。</p>
<p>○個々の児童の特性等、児童理解は最重要と考え、組織対応を心がけた。毎回の職員会議において全職員での情報共有も行ってきた。支援を要する児童に対する効果的な指導について、特別支援コーディネーターを中心に支援会議を数多く行い、児童理解と支援方法の共有化を図ってきた。</p> <p>○個々の児童をより知り、課題に対しての支援方法の充実をよりしていくことが課題。</p>	A b	<p>○個別の支援計画・個別の支援計画を大切にしたい。子ども一人ひとりの伸びてきたところ、課題を正確につかみ、伸びたところを生かしながら課題克服になっていくような支援方法を考えていく。学期ごとに修正を必ず行い、課題克服に向けてチームで方法を考え、チームで実践していくことを大切にしたい。</p> <p>○職員会議や支援会議では、職員間の情報共有を大切にしたい。</p>
<p>○外や体育館で元気に遊ぶ子どもの姿が毎日見られた。体を動かし、のびのびと友達と関わり合って遊ぶ姿が微笑ましい。児童玄関に設置されているフラフープや一輪車に挑戦し、上達する児童もいた。生活科や総合的な学習で自分の興味関心から学級全体の中核活動まで進めていくことが課題。</p>	A b	<p>○年度初めに多く外で活動し、子どもたちの興味関心をつかむ。そこから1年間を見通しての生活科や総合的な学習の計画を年密に立てていく。学期ごとに修正を行い、1年間を通しての活動になるようにしていく。</p> <p>○職員研修で美篤地域の歴史・地理・文化・人物などをより知る機会を持ち、学習に生かしていく。</p>
<p>○児童会活動を中心にあいさつ活動に取り組んできた。しかし、登下校の見守り隊の方々や友だちへのあいさつは、相手に伝わっていないようにも見える。相手を意識した挨拶をめざしたい。また、交通安全や防犯につながる地域の方への挨拶も進んで行えるよう、次年度以降も取り組んでいきたい。</p>	A b	<p>○児童会を中心にあいさつ活動を企画して行っていく。異年齢の児童同士が関わる活動を少しずつ位置づけ、まずは挨拶から始めるようにする。また、保護者や地域の方たちにも呼び掛け、協力をお願いしていく。</p>

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育活動	教育課程	○学校教育目標の具現	○学校教育目標から「めざす子どもの姿」を具体的にイメージ・設定し、具現化できるように努めたか
		○桜並木活動・地域学習等、本校としての特色ある教育活動の充実	○桜並木活動の継続・資料館体験学習・朝の活動・食育等、本校としての特色ある教育活動は、子どもたちの生きる力を育むことにつながったか
	学習指導	○学力の定着 学力分析による実態把握からの授業づくり	○全国学力学習状況調査・ベネッセ学力検査等の標準化されたテスト結果の分析を基にした授業改善により、具体的な成果が上がったか ○単元テストやAIドリル等の活用や結果を基に、具体的な支援や授業改善を行ったか
		○授業改善 ICTの活用を探り、協働の追求と自己の振り返りを意識	○主体的・対話的で深い学びやICTの有効な活用等を意識した授業改善に積極的に取り組んだか。また、協働の追究場面やふりかえりの時間の確保ができたか
生徒指導	○学級づくりと支援体制の充実	○配慮を要する児童に対して、生徒指導主任、特別支援教育コーディネーターに情報が集まるような支援体制をとり、連携して支援にあたったか	
	○問題行動の早期発見・迅速な対応のための体制の構築	○情報収集に努め、いじめ・不登校等、生徒指導に関する問題の予防・早期解決にむけ迅速に対応した支援を行ったか	
学校運営	安全	○安全教育の充実	○交通安全指導、登下校指導、避難訓練などを行い、子どもの安全意識を高める教育を行ったか
		○安全点検や危機管理マニュアルの整備による児童の安全確保	○安全点検を日常的に行ったり、危機管理マニュアルの見直しを行ったりして、子どもの安全確保につとめたか
	地域と	○地域の教育力の活用	○総合的な学習の時間、食育、教科学習等の教育活動において、地域の方を外部講師に依頼し、地域の教育力を活用した教育活動を行ったか

成果と課題	評価	改善策・向上策
<p>○学校教育目標から学級目標を決め、日常的に意識できるよう具体的な内容にした。学級毎、適時振り返りを行い、子どもの意識の継続に努めている。外で元気に遊ぶ子どもの姿が多く見られ、体を動かし、友だちと関わりながら自他を大切にできる姿が多く見られた。</p>	A b	<p>○学校目標や学級目標が、日常的に児童が意識化できるような支援を工夫する。具体的な姿を共有し、児童の自己評価や相互評価を重視し、意識の向上につなげる。</p>
<p>○本校の特色ある活動である桜並木活動は春と秋に実施。縦割りの異年齢集団で、体験を通して学びとなった。地域の方との交流もあり、地域を学ぶ貴重な機会として継続する。4年の水路探検・5年のダム見学など、地域を学ぶ機会を増やした。今後も継続したい。</p>	A a	<p>○桜並木活動は、春に4～6年生、秋に6年生のみで行うことを継続していく。4・5年生の地域を知る学習(三峰川の堰、井筋の歴史等)として今後も活動内容を工夫しながら継続していく。</p>
<p>○学力検査の結果分析から、学力の課題が明確になり、校内で共有。各学年ごとに課題とその方策を考え合い、一定の成果が見られた。協働的な学習の効果高めるためにも、話すこと・書くことを中心に、子どもたちの表現力・自己表出の力を高めたい。</p>	B b	<p>○どの授業でもつける力を明確にした授業の充実を目指す。『わかる授業の3観点』を再確認し、「ねらい・めりはり・見とどけ」を基本とした授業づくりを意識する。</p> <p>○来年度は、自己表出を目標にして、子どもが、自分の考えを書くことができる、発表することができることを目指す</p>
<p>○iPad等ICT機器について、活用の意識が高まっている。効果的な活用方法をさらに探っていく。</p> <p>○AIドリルを活用し、瞬時に結果が子ども達にフィードバックできるメリットを実感しており、より活用を進めていきたい。</p>	B b	<p>○iPad等ICT機器について、さらに職員研修を行い、より日常的に使用できるようにする。あわせて子どものモラルやリテラシー等も高め、トラブルの予防としたい。</p> <p>○AIドリルの活用を推進する。児童が自分でつまずきに気づいたり、解決したりできるよう、学習状況の把握を行う。</p>
<p>○個々の児童の特性等、児童理解は最重要と考え、組織対応を心がけた。生徒指導主任を中心に、毎回の職員会議において全職員での情報共有も行ってきた。支援を要する児童に対する効果的な指導について、巡回指導員、通級教室指導員等に助言をいただく機会を設け、改善に取り組んだ。</p>	B b	<p>○配慮を要する内容については、特別支援コーディネーターに情報が集まる体制を今後も確認する。定期的な支援会議を行い、情報共有・対策検討の場とする。支援会議を今後も多く開催し、児童理解に努める。</p>
<p>○不登校傾向児童への支援では外部機関と連携し、中間教室や、SC、SSWの相談等、個別に対応し、少しずつ前に進むようつないでいる。子どもと親の相談員の常駐する「いこいの部屋」が居場所になっている子どももいる。</p>	B b	<p>○不登校または不登校傾向の児童については引き続き、職員会議や支援会議で情報共有し、本人や保護者とも相談して、SCやSSW、中間教室などの外部機関とも連携しながら、個に応じた居場所づくりを今後も行う。</p>
<p>○今年度は美篤防災フェスを契機として交通安全・自然災害等について、「命を守る」観点で安全指導を行うことができ、子ども自身の意識を高める事につながった。避難訓練については、年4回行い、丁寧に指導した。</p>	A a	<p>○登校指導や下校指導、避難訓練、不審者対応訓練、交通安全教室は今後も実施する。避難訓練や交通安全教室の内容については、今年度の反省も踏まえ、設定を変えていくなど、必要に応じて検討したい。</p>
<p>○危険箇所や不具合等について早期に対応。対応困難なものや緊急を要するものは市教育委員会とも連絡を取り合い、修繕した。</p> <p>○雷雨時に下校時刻を変更などの連絡をオクレンジャーで送信した。</p>	A b	<p>○緊急時のオクレンジャーでの保護者への連絡は今後も継続していく。避難訓練や不審者対応訓練の反省から、必要に応じて危機管理マニュアルの見直しに着手する。</p>
<p>○開校記念行事において、地域の方を講師に体験学習を実施。地域の歴史や文化を学ぶことができ、地域の持つ教育力を活かした行事となった。米づくりでは、地域の方から直接学ぶことができ、貴重な体験学習となった。今後も地域の方にご協力をいただきながら体験学習を多くしていきたい。</p>	A a	<p>○地域の方々の力をお借りして、学習支援、環境整備、行事支援などできることを広げていきたい。来年度も、美篤公民館や社協に窓口となっていただき、地域と繋がる信州型CSの地域学校協働活動の充実をめざす。</p>

の 連 携	○PTA活動の充実	○「すべての子どもたちの懸け橋に―家庭・学校・地域社会とより一層の連携を」をテーマに、PTA活動への積極的な参加、子どもを守り育てる活動、親子の絆を深める活動を行ったか	○PTA講演会では子と親との関わり方を目的に講師を決定した。講演内容に必要性を感じている保護者が多く、参加する保護者が多かった。 ○各学年レクを通じ、親子の交流を行い、親子・学年の絆を深めた。 ○支部情事を積極的に行い、地域社会とのつながりを感じる児童が多かった。 ○PTAに入会しない家庭が出始めてきている。	A a	○よりよい子どもの学びを支援することを目指したPTA活動を計画、実施した。工夫により親子で絆を深め、充実感を味わう体験となっている。 ○PTA講演会は、時事や社会的に関心の高い内容、講師を計画したり、方法や時期を工夫したりして、積極的な参加を呼び掛ける。 ○多くの方が参加しやすい内容になるよう、企画・時期・回数検討を行う。
	○指導力向上をめざした授業研究	○教師一人一人が授業改善の自己課題を明らかにし、授業づくり・教材研究、ICTの活用等について研究を行い、研究成果を授業で公開し、お互い学び合って授業改善を行ったか	○ICTの活用やiPadの活用が授業の中で定着し、学び方の幅が広がった。職員同士の教材研究や学び合いも日常的に行っている。反面、情報モラルの指導の重要性が大きくなってきており、情報モラルやリテラシーについて職員が意識を高く持ち、児童への指導を繰り返し行っている。	A b	○ICTの活用、情報モラルやリテラシー教育、デジタルシティズンシップについては、積極的に外部講師を招いて、職員の研修の機会ともしたい。 ○学習指導研究では協働的な学習の進め方や子どもたちが主体性をもって学習に取り組める授業を職員同士で学び合う機会をもつことを継続したい。
	○職員研修の充実	○特別支援教育研修、人権研修、地域研修など様々な研修に取組み、学級経営や授業づくり・生徒指導等に活かしたか	○人権教育研修、M地域を知る研修、救命救急法研修等、必要と思われる内容は全職員で研修を実施してきた。また、非違行為防止研修は毎回(年12回)職員会議で行っている。	A a	○人権教育研修を継続して行い、児童のことをより深く考える職員集団を目指す。また、子どもたちの学習の幅を広げるために、地域(美鷲)について職員が学ぶ機会を大切にしたい。